

第6回 津波防災地域づくりと砂浜保全のあり方に関する懇談会

日時：平成30年8月10日（金）

13:00～15:30

場所：中央合同庁舎3号館1階

共用会議室（A会議室）

議事要旨

○塚原局長挨拶

- ・津波防災地域づくりに関する中間とりまとめでいただいた提言をしっかりと具体化するよう、全国の海岸管理者をはじめとする関係者と連携して進めていきたい。
- ・今回から砂浜保全をテーマとして議論いただくが、国土保全、防災、自然環境、景観、観光振興などの面で重要である。非常に難しいテーマでもあるが、様々な課題についてご議論いただきたい。

○佐藤座長挨拶

- ・様々な観点からご議論いただきたい。

1 砂浜の管理に関する枠組・砂浜の類型化

- ・砂浜の類型化について、A、B、C、D、4つに区分しているが、範囲はどう捉えれば良いのか。
 - 直轄海岸でいうと、事業単位である工区というイメージ。
 - 砂浜Aもある海岸という意味で理解している。Aが一箇所でもあれば、周辺に影響を与えるので、一番厳しいところで代表させていると理解。
- ・砂浜の分類は、費用便益分析の観点からすべきではないか。横軸に砂浜の維持費用、縦軸に砂浜の価値費用（防護、環境、利用）をとり、例えば、45度線を引くと、それよりも左側は事業投資効果がある、ということになる。
 - 砂浜を分類するにあたって、一次分類としてまずはやってみようとするもので、二次分析の段階にあたっては、横軸に砂浜の維持費用、縦軸に砂浜の価値費用（防護、環境、利用）をとり、考えるべきではないか。
- ・背後に資産がないとしても、環境や利用の価値、また、地形上の砂丘の防護効果を考えた方が良い。優先順位で放置しておく、侵食が進み、結果的には、先行的に対策をしておけばよかったということもあるので、そのようなことに対応できる事業採択があると良い。
- ・砂浜管理に関する検討フローは、PDCAサイクルを続けるようになっているが、砂浜管理のゴールを共有すべきである。海岸侵食対策事業を実施しなくても良いことをゴールという考えで良いか、議論してほしい。
- ・最初から各海岸を類型化して、この海岸はこうすべきと決められるほど知識があ

るのか。アダプティブマネジメントということで、仮においた管理目標があり、それを確認できるであろうモニタリング手法があり、その上で、そこに向かっていくか否かの仮説検証をしながら、介入の仕方を変えていくべきではないか。

- ・砂浜Cに行ったら、ある程度のゴールとして良いのではないか。予算やマンパワーなど様々な点がリミテッドな一方で、やるべきところは沢山あるので、ある程度で見切りをつけて、次の海岸に着手するということが良いのではないか。
- ・C、C' を目標ということもあるが、そもそも本当に最適かという検討を本来やるべき。例えば、華厳の滝は、予算をかけながら滝を維持することで、あれだけのベネフィットを生んでいる。したがって、同じように常にお金をかけても守りたいという海岸もあるはず。

2 砂浜の海岸保全施設としての指定範囲

- ・新潟海岸の場合、沖合いに人工リーフがあり、それより岸側に養浜をしている。石川海岸も同様。断面の形状だけでなく、新潟海岸のように施設でコントロールできる範囲を区域としていくということを明示した方が良いと思う。
- ・海岸保全施設として考える際に、構造物ありきで検討することになるのか、自然状態で管理するということがあり得ないのか。
→海岸法の規定では、何らかの手を入れた砂浜が対象とされたと認識している。
- ・まずはこのような考え方で経験を積んで、砂浜の機能を世の中に明示することにより、次に進めることができると理解している。

3 砂浜のモニタリング手法

- ・UAV は、やり方によって精緻にも測量可能なので、定点写真とは別物として扱った方が良い。
- ・範囲は地先海岸や地区海岸だとして、精度について、高さ方向で見るのか、水平方向で見るのかによって全く異なったり、スパンによっても変化量が異なる。今の議論がどこを目指しているのか整理しないと、良い悪いの議論が合わないのではないか。
- ・測量するのは良いが、集めたデータが共有されていない。データのポイントが分かるようにしっかりとまとめるべき。
- ・海岸協力団体、環境団体の活動を表彰するような場はないのか。これらの取組やデータを共有することで、地域にフィードバックすることになるのではないか。
- ・海辺の国勢調査は、実態上、動いていない。それは、調査結果が設計や海岸管理にフィードバックする仕組みができていないことによる。物理データと環境データを併せて海岸管理に活用することを検討してほしい。

4 砂浜の便益評価に関する検討

- ・1回当たりの利用価値2179円／回は全国平均なので、白浜海岸の利用価値を用いた方が望ましい。白浜海岸の利用価値を用いるとさらに高くなる。

- ・砂浜が 1 m²増えると利用価値が一律に増えるか、TCM による利用価値だけでよいのか、などの前提条件の設定も地域に即して設定するなどを議論して適用をすることが重要である。全ての項目を便益評価するといった努力もいいが、別の見せ方についても議論した方が良いのではないか。
→全ての環境の計測は困難であることを前提に、算出精度の向上と併せて、貨幣換算せずに定性評価による総合評価の両面を考えていきたい。また、トラベルコストは利用価値なので、環境価値は別のやり方で算出して、足すことが可能ではないか。
- ・便益評価対象となる項目が少ないことに衝撃を受けた。本来、カウントすべきである。地域の誇りが地域の活力になっているということは貨幣換算できないが、地域づくりの観点からは重要である。
- ・机場の議論、検討で終わらせるのではなく、失敗するとしても、具体的に現場に落とし込んで実行することが大事ではないか。

(以上)